

はじめに

本書は、筆者ら九州大学「高等教育と学位・資格研究会」が開発した Web 卒業生調査システムを用いて、私立5大学の文系学部中心に共同 IR として実施された「大学の学習成果と卒業生のキャリア形成に関する調査」における、調査方法論の開発経過と、その実施を通して得られたデータの分析報告を、本研究会ワーキングペーパー・シリーズ No.3としてまとめたものである。

本調査の原型となったのは、本研究会がその前の段階で実施した短期大学・専門学校対象の IR 型卒業生調査（平成21～24年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究（A）『非大学型高等教育と学位・資格制度に関する研究』（研究代表・吉本圭一、略称「EQ1科研」）による）である。この「EQ1科研」の Web 調査システムでは、職業分野をグルーピングし、17分野で設計・実施となったが、大学卒業生対象の今回は、参加大学学部の特色から、領域を観光、人文・ビジネスの「非資格系」と、福祉・保育、栄養の「国家資格系」の4分野に絞って、システムの開発と調査実施を行っている。

本調査システムの設計・開発は、2つの科研（平成25～29年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究（A）『キャリア・職業教育による高等教育の機能的分化と質保証枠組みに関する研究』（課題番号：25245077）（研究代表・吉本圭一、略称「EQ2科研」）と平成23～25年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究（B）『大学から職業への移行を促すインターンシップを軸としたキャリア教育研究』（課題番号：23330246）（研究代表・椿明美、略称「キャリア科研」）の共同によるものである。

IR をタイトルに掲げているように、卒業直後から卒後10年目までの初期キャリアの実態把握だけでなく、大学のステークホルダーでありサポーターでもある卒業生からみた大学教育・学習経験に対する点検・評価を調べ、そこで得られたエビデンスを大学や専門分野の自己理解向上に結びつける試みを行っている。そのため、本研究会では、調査の企画、調査票設計、ウェブ調査システムの開発を事務局が中心となって担当し、調査実施後は、それらの結果をもとに参加機関の教学担当者が協力し、共同 IR・協働 IR として検討を行ってきた。この参加機関担当者相互の共同 IR 研究会は、「大卒 IR 参加機関研究会」として、実査の終了後から1年余りで計9回開催されている。各校のカリキュラム改善の実情や教育内容を分析データの結果とともに総合的に検討する研究会は、担当者相互の FD としても有意義な取組となっている。また、卒業生調査の実施においては、参加機関の募集から調査設計・ウェブシステム開発、そしてその後の参加機関研究会の開催に至るまで、事務局として常に尽力してもらった江藤智佐子氏（久留米大学）には、今回の報告書の編集も担当いただいた。

末筆ではあるが、本調査にご協力いただいた卒業生のみなさん、参加機関担当者の皆様にこの場を借りて御礼申し上げたい。本報告書が契機となり、調査研究から教育改善へと共同 IR が展開し、IR 研究がさらに次のステージへと発展していくことを願っている。

2016年2月

九州大学「高等教育と学位・資格研究会」

代表 吉本 圭一（九州大学 主幹教授）

本研究会の英語名称は“Seminar in Higher Education and Qualifications”とし、“Education”と“Qualifications”の頭文字をとって「EQ 研」という略称を採用しています。